

2017年度ビザなし交流の体験談

# 私の色丹島訪問記

私（福元）は、2017年高校2年生の際に、北方四島ビザなし交流で色丹島を訪問しました。今回は、色丹島で見た景色や出会いをみなさんに紹介します。



## えとびりか

◀北方四島交流等事業の使用船舶「えとびりか」。  
今回、私も初めて利用しました。



## ネームプレートは2カ国語

◀色丹島行きの船に乗る前に名札が配布され、日本語だけでなく、ロシア語でも名前が書かれていました。



## 国籍を超えた歓迎

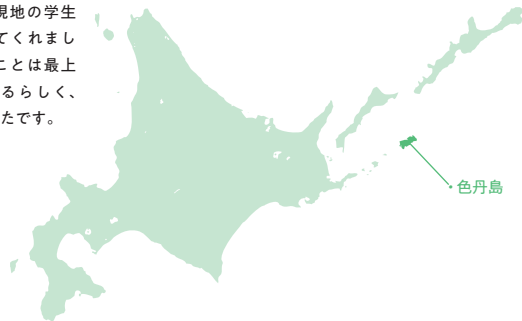
◀「た」の濁点は抜けてはいるものの、とても温かい歓迎を受けました。



## 色丹島に到着！

◀色丹島に着くと、現地の学生たちが温かく歓迎してくれました。パンでもてなすことは最上級の歓迎とされているらしく、味もとても美味しかったです。

ちなみにこのパンは  
"カラヴァイ"と呼ぶそう！



至る所に日本文化が！  
◀現地の学校では、これまでの両国における文化交流の深さを感じさせる品々が多く展示してありました！

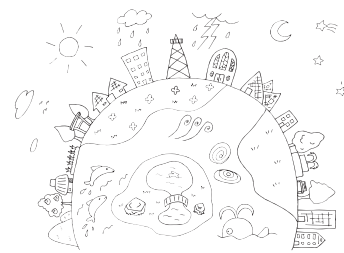


キャッチボールを通して絆を深める  
◀日本の伝統的スポーツである野球を通して現地の学生と親交を深めました。



## 色丹島で育んだ絆

◀通訳の方はいたものの、私はロシア語が話せない、また現地の学生も日本語はもちろん英語も話せないという状況であり、思い描いた円滑なコミュニケーションを取ることに苦労しました。しかし、スポーツを通して確かな絆を築くことが出来ました。



わざわざ見送りに来てくれた2人！

あつという間に時は過ぎ…  
◀そしてお別れの時間。今回の訪問を通じて仲良くなった2人とツーショット！この2人は今でもSNSを通じて交友が続いています！

今回の訪問を通して私が経験したのは、両国の絆はもちろんのこと、それと同時に直面したのが「日本の領土でありながら日本人が住むことを許されていない現状」でした。

まず、私たちが北方四島の現状を把握し、一人一人が問題を認識することが北方領土問題の解決につながります。「領土問題」と聞けば何か遠い問題に思えますが、皆さんそれぞれが問題意識を抱くことで、それが国民の総意となり、問題解決への後押しとなります。

国籍は違えど、同世代の友人と今後の北方領土問題解決に関して言葉を交わすことができたこと、そして何よりも現地で出会った友人らと一生続くであろう親交を持つことができたことは、何よりの出来事でした。